

療養援助技術論

単位数（時間数）：2 単位（60 時間） 必修/選択：必修 履修年次：2 年次 開講時期：前期

科目責任者（職位・氏名）：教授・土田幸子

科目担当者（職位・氏名）：助教・野中みつ子、助教・武田恵梨子、特任助教・山田英子

対応DP：基礎力をもった社会人 ケア・スピリット 看護専門職者としての基本姿勢
看護の基礎的・専門的知識と技術 社会への関心と地域貢献 生涯学習・自己研鑽

科目記号：50

■ 授業概要

診療（治療・検査）に伴う援助技術について、科学根拠及び理論的根拠を踏まえて基礎的な知識と、侵襲を伴う技術を安全・安楽に提供するための原理原則を教授する。

具体的には、感染管理とスタンダードプリコーションに伴う技術、滅菌操作および創傷処置に伴う技術、吸引、酸素吸入、採血等検査に伴う技術、与薬に伴う技術について、講義における知識と演習における技術を統合した基礎能力を養う。

■ 到達目標

1. 診療（治療・検査）における看護職の役割と責務について理解し、説明できる。
2. 診療（治療・検査）に伴う援助技術を安全・安楽に実施するために必要な科学的根拠を理解し、説明できる。
3. 対象者の苦痛に配慮し、安全で安楽な技術を実施できる。
4. 健康障害をもつ対象者の状態をアセスメントし、適切な援助技術を実践できる。

■ 教育内容

基礎看護学

■ キーワード

身体侵襲、治療、検査、感染管理、科学的根拠、アセスメント

■ 授業計画（授業項目、授業内容・授業方法、担当教員）

| 回 | 授業項目 | 授業内容・授業方法 | 担当 |
|----|-----------------------------|--|----|
| 1 | 授業ガイダンス 診療過程における看護の役割と責務 | 授業ガイダンス 診断・治療の過程とは、 診療に伴う看護の役割と責務 | 土田 |
| 2 | 呼吸を楽にする技術 | 呼吸の生理学的メカニズム 呼吸を楽にする援助技術 | 野中 |
| 3 | 【演習】呼吸を楽にする技術 | 2グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要 項を確認すること) | 共同 |
| 4 | 酸素吸入、吸引 | | |
| 5 | 感染予防を推進する技術 | 消毒や滅菌の知識とその扱い、感染予防を含 めた感染管理 | 山田 |
| 6 | 【演習】 感染予防を推進する技術 | 2グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要 項を確認すること) | 共同 |
| 7 | 無菌操作、滅菌物の取り扱い | | |
| 8 | 排泄を促す技術 | 自然排泄（排尿・排便）が困難な場合の援助 技術 | 野中 |
| 9 | 【演習】 | 2グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要 項を確認すること) | 共同 |
| 10 | 一時的導尿、浣腸 | | |
| 11 | 食事・栄養摂取を促す技術 | 非経口摂取方法とその援助技術 栄養状態のアセスメント 創傷管理（創傷の分類、褥瘡の管理） | |
| 12 | 【演習】経管栄養 | 2グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要 項を確認すること) | 共同 |
| 13 | 【演習】創傷処置、包帯法 | | |
| 14 | 【演習】 統合学習① | 学外学習 | 共同 |
| 15 | | 全体を3グループに分けて病院で実施する。 | |
| 16 | | 実施要項は別途掲示する。 | |

| | | | |
|----|-----------------------------------|--|----|
| 17 | 与薬を安全に行う技術① | 与薬における看護と法律 与薬のための基礎知識 | 土田 |
| 18 | 与薬を安全に行う技術② | 経口与薬、注射法 | 土田 |
| 19 | 【演習】与薬を安全に行う技術 | 2グループに分かれて演習を行う。(スケジュール等の詳細は配布する演習要項を確認すること) | 共同 |
| 20 | 皮下注射、筋肉内注射 | | |
| 21 | 【演習】与薬を安全に行う技術 | | |
| 22 | 静脈内注射、点滴静脈内注射 | | |
| 23 | 検査・治療を安全に行う技術① | 臨床検査の意義と看護者の役割 検体検査の種類と援助 | 土田 |
| 24 | 検査・治療を安全に行う技術② | 生体検査の種類と援助 | 土田 |
| 25 | 【演習】 検体検査を安全に行う技術 | 2グループに分かれて演習を行う。 (スケジュール等の詳細は配布する演習要項を確認すること) | 共同 |
| 26 | 静脈血採血 | | |
| 27 | 【演習】 統合学習Ⅱ ・身体的状態についてアセスメント | 事例の身体的状態についてアセスメントするために、SCENARIO、フィジコを用いたシミュレーション学習を行う。個人ワークとグループワークにより学習する。 実施要項は別途掲示する。 | 共同 |
| 28 | | | |
| 29 | | | |
| 30 | まとめ | これまでの学習を通し、看護職に求められる能力や姿勢(知識・技術・態度)についてグループで話し合い、到達度と課題について発表する。 | 土田 |

■ 履修条件

生活援助技術論を履修していること。

■ 成績評価方法

事前学習課題 10%、総合演習レポート 20%、期末試験（実技試験を含む）70%により総合的に評価する。

■ 課題（試験やレポート等）に対するフィードバック方法

- ・事前学習ワークシートのフィードバックは、コメントを付して行うとともに、質問欄に記載のあった内容については解説をする。
- ・各演習では、教員による技術チェックを受け、最後に学生個々にフィードバックを行う。教員によるは再チェックを行う場合もある。
- ・期末試験は、希望者に対してフィードバックを行う。希望者は、再試験の対象、非対象に関わらず、再試験日以降2週間以内に、科目責任者へメールにてアポイントをとること。

■ 教科書

- ・『デジタル ナーシング・グラフィカ』メディカ出版
基礎看護学 ② 基礎看護技術Ⅰ コミュニケーション／看護の展開／ヘルスアセスメント
基礎看護学 ③ 基礎看護技術Ⅱ 看護実践のための援助技術
基礎看護学 ⑤ 臨床看護総論

■ 参考書・参考資料等

- ・必要時、授業内で提示する。
- ・授業前にワークシート（事前学習課題）、演習前に演習要項を配布する。

■ 準備学修に必要な時間及び具体的な学修内容

- ・講義授業は1時限につき、事前・事後学修時間として90分、演習授業は1項目の授業につき、事前・事後学修時間として180分程度を必要とする。
- ・事前学修：ワークシート、自己練習、指定された事前学習
- ・事後学修：自己評価、復習、自己練習

■ 担当教員からのメッセージ

この科目で学習する技術は、科学的根拠を踏まえた正しい知識の修得がなければ、患者の安全を脅かす可能性のある技術です。1年次で学んだすべての知識と技術、生活援助実習で学んだことを活かし、確実な技術の修得を目指しましょう。

■ 研究室、連絡先、オフィスアワー

研究室 11、tsuchida★iwate-uhms.ac.jp、事前にメールで教員の予定を確認してください。

(※メールの際は★を@にしてください)

■ 担当教員の実務経験の有無

有

■ 担当教員の実務経験

看護師

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者の有無

無

■ 教員以外で指導に関わる実務経験者

■ 実務経験を活かした教育内容

各教員が病院での臨床経験を活かし、臨床における看護技術に関する専門的で実践的な講義・演習を行っています。